

ランベス・コール

宣教と福音伝道 ウェビナー - 2025 年 5 月

ジョー・ウェルズ大主教：世界のどこにいても、宣教と福音伝道に関するランベス・コール・ウェビナーへようこそ。私はジョー・ウェルズです。私はランベス会議の第 3 フェーズを主催する国際チームの一員で、今日は宣教と福音伝道に焦点を当てます。これはランベス会議の最初の呼びかけです。今日、私たちはそのテーマと原則のいくつかを見ていきます。いつものように、今日はイギリスだけでなく、インド、マレーシア、モザンビーク、ブラジルなど、世界のさまざまな地域から特別ゲストをお招きしています。そしていつものように、グループディスカッションのための聖書研究資料も紹介します。皆さん、このウェビナーが終わる頃には、この第 3 フェーズの旅への呼びかけにあなたの声を加えようという気持ちになることを心から願っています。それは聖書研究かもしれません。木を植えることかもしれません。安全な教会役員を任命することかもしれませんし、今日、何か新しい方法で福音を伝えるために踏み出すことかもしれません。しばらくしたら、私の兄弟であるフリオ・マレー大主教に引き継ぎます。フリオはランベス・コールの運営グループの議長であり、中米のパナマの主教でもあります。しかし、その前に、共に祈り、神の祝福を招きましょう。主なる神よ、私たちは今日という日を感謝し、あなたの慈しみと私たち一人ひとりへの愛に感謝します。私たちの主イエス・キリストのために、そしてあなたの栄光のためだけにお願ひします。アーメン。フリオ大主教。

フリオ大主教：ありがとうございます、ジョー大主教。ようこそ。私の名前はフリオ・マレー・トンプソンで、パナマの主教です。私は宣教と福音伝道に関するランバートの呼びかけに情熱を持っています。聖霊によって私たちの心に注がれたキリストの愛に強いられ、私たちは、福音が宣言する救いと贖いを世界が受ける必要があること、神がなさったこと、神がなさろうとしていること、そして神がキリストにおいてなさろうとしておられることすべてに、すべての人が信仰をもって応答することができるように、すべての人が良い知らせを聞くことができるように、という言葉を確認しています。この重要な呼びかけについてさらにお話しするために、私とともに第 3 期計画グループの一員である 2 人の主教をお迎えしたいと思います。南部アフリカ聖公会レソトの主教であるビセンティア・クガベ主教と、北インド教会デリーの主教であり、福音宣教・弟子訓練委員会のメンバーでもあるパウロ・スワラップ主教です。ようこそ、ビセンティア主教、宣教と伝道に関するランベス・コールについて教えてください。

ビセンティア主教：フリオ主教、ありがとうございます。これは、聖公会全体の主教を対象とした 2022 年のランベス会議で検討され、承認された最初の呼びかけでした。この呼びか

けは、キリストにおける神の宣教と、この良き知らせを他の人々と分かち合うことの必要性という文脈の中で、私たちの議論を枠組む基調メッセージとして機能しました。私たちは幸運にも、ヨーク大主教のスティーブン・コットレル師とチリ大主教のティト・ムノス師からお話を聞くことができました。この呼びかけは、証をし、福音伝道に従事することへの力強い招きであり、まもなく検討される具体的な要請も含まれています。

フリオ大主教：ありがとうございました。では次に、パウロ主教から、ランベス・コールの要請に応えるために、福音宣教・弟子訓練委員会がどのように聖公会の諸教会を助けているのか、また、あなた自身の状況における弟子訓練の取り組みについて少しお聞かせください。

パウロ大主教：ありがとうございます、フリオ大主教。委員会は、聖公会のために教会の設立を伴う弟子訓練の新しい 10 年を計画しており、それは 2026 年から 2036 まで続きますので、ビジョン 36 と呼ばれることとなります。来年、聖公会が全聖公会中央協議会（Anglican Consultative Council）を開催する際に、アイルランドのベルファストで開始されることを期待しています。このビジョンは、聖公会の加盟教会が新しい信者を教え、洗礼を受け、育成するよう励まし、備えるものです。第二の「宣教の指標」にあるように、私たちの教会が、初めて信仰を持つ人々の間に新しい礼拝共同体を築くことを奨励するのです。これは、ランベス・コールに基づく、挑戦的でエキサイティングなビジョンです。私自身の文脈では、北インド教会のデリー教区では、今年を「意図的弟子性と弟子養成の年」と位置づけています。弟子養成に関するいくつかのプログラムを実施し、現在は「宣教の 5 指標」に関するセミナーを開催しています。実際、今月 9 日には、「教える」というテーマでセミナーとワークショップを行いました。どのように人々を育て、どのように洗礼を授けるか、これが宣教の第二の指標です。

フリオ大主教：お二人とも本当にありがとうございました。さて、「宣教」の具体的な要請の一つは、各教区が、まだ言葉や福音を聞いたことのない人々に福音を伝えるために、文脈に適した方法で教会を活性化し、新しい信徒を教えるために、新鮮で創造的な取り組みをすることです。西マレーシア教区、東南アジア管区の教会で、このことがどのように起こっているのか、2 人のゲストをお招きしてお話ししていただきます。ムン大主教、あなたの教区の教会開拓について教えてください。どのように活動していますか？どのような影響がありましたか？

ムン大主教：ありがとうございます。フリオ大主教、光栄です。90 年代、私の前任の主教がすべての教会に新しい教会の建設や新しい信徒の成長を促したときのことを思い出しますが、それは私たちにとって初めてのことでした。聖職者も信徒も、私たちはどうしていいかわかりませんでした。そこで私たちは主教に尋ね、主教は 3 つのことを示しました。主教は、すべての教会が次の 3 つのことを行うべきだと言いました。その 1、すべての PCC は、

毎月、宣教・伝道・教会の設立を議題に入れなければならなりません。その 2、すべての PCC は伝道と教会開拓の責任者を任命しなければならなりません。その 3、すべての PCC は、伝道と教会開拓のための年間予算を計上しなければならなりません。10 年後、私たちがすべての回答と教会の統計を照合し始めたとき、10 年間で 12,000 人増加したことがわかりました。つまり、年間 1,200 人、毎月 100 人ということです。ということは、毎月 100 人の教会を建てるということです。すごい！ですから、私が主教になる頃には、同じ考えを継続し、より組織的に増やしていきました。そして、私たちは成長し続け、教会はより多くの会衆を増やし始め、より多くの教会が成長し続け、現在に至るまで、200 以上の会衆を有しています。そして、私たちが行っている策略の非常にシンプルな例を紹介したいと思います。もちろん、これは数ある策略のうちのひとつにすぎませんが、多くの人は、新しい教会を建てたいと思ったときに、既存の教会はどうなのだと言います。そこで、私たちは人々に携帯電話を取り出してもらい、教会に通っているけれども教会に通っていない友人がいたら、メッセージを送ってみてはどうかとお願いしています。その人にメッセージを送ってみませんか？こんにちは、お元気ですか。どうしたらあなたのために祈れますか？相手はとても驚くでしょう。そして、時にはコーヒーに招待したり、特別な礼拝に招待したりして、彼らが戻ってきたときに、教会の家族を見つけ、本当に懐かしく思い、それを望んでいることを知るのであります。そして、私たちはクリスチャンでない人たちにも同じことをします。これは多くの例のひとつです。私はただ神に賛美をささげます。ありがとうございます。

フリオ大主教：例を挙げていただき、ありがとうございます。それではメリッサさんにお話を伺いましょう。あなたの教会開拓の経験について、また将来への希望についてお聞かせください。

メリッサ：ムン・ヒン大主教、フリオ大主教、どうもありがとうございました。アルファ・コースがアジア全域で伝道、教会の団結、地域社会の設立に使われている創造的な方法をご紹介します。一つ目は、アルファを伝統的な教会の建設のツールとして使うことです。10 年前、ムン・ヒン主教はアルファ・コースの本拠地であるホーリィ・トリニティ・ブロンプトンを招き、クアラルンプールで教会の設立を始めました。チームがクアラルンプールに到着すると、まずアルファ・コースを各家庭で 1 年以上実施しました。これによって人々が集まり、今日の教会設立につながりました。この教会では現在、3 つの英語礼拝、2 つの北京語礼拝、1 つのミャンマー語礼拝、そして青少年と子どもたちのためのミニストリーがあり、社会貢献活動も盛んです。今では 2,000 人以上の信徒がいます。今年の復活日には 3,000 人以上が集まりました。本当に励みになります。その後、HTBB はクチンにも教会を建て、そこもアルファから始まり、約 2 年後には 100 人以上の規模になりました。しかし、最も実りある伝道は職場であり、私はこれにとっても興奮しています。例えば、中国では 7 回のアルファ・コースで 100 人以上の従業員に伝道しました。その結果、職場に教会がで

きました。職場は最大の収穫の場であり、職場の人々はつながりと愛に飢え、切望していることを、私たちは至るところで目にしています。マレーシア最大の電話会社のひとつは、12年以上にわたって毎年2回のアルファ・コースを実施しており、累計で500人以上の従業員、ベンダー、サプライヤーなどに達しています。そして、ほぼ100%の救われた率を見てきました。あるビジネスマンが、クアラルンプールの中心部にある自分のオフィスビルで、その地域で働く大勢のサラリーマンにリーチするためにアルファを始めました。わずか2年後、彼はビルのフロア全体を教会建築のために献げました。香港では、年に一度、さまざまな教会からクリスチャンが集まり、IFC や ICC のビルで働くオフィスワーカーをアルファに招待しています。これは、地域教会がどのように会員を団結させ、支援し、備えさせ、解放し、手を差し伸べていくことができるのか、その美しい姿を示していると思います。職場はオフィスに限定されるものではありません。例えば、ケーキデコレーターでシェフでもある女性が、自宅でアルファ・コースを開催しました。ある教会の信者は、自分のジムにアルファを持ち込み、ジムに通う人たちが申し込める多くのクラスのひとつとしてアルファを提供しています。ある医師は、週に一度、クリニックを休診にして昼食をとり、医師や看護師たちとアルファ・プログラムを実施しました。美容院のオーナーも同じことをしました。そして、上海のクリスチャン職場のリーダーグループは、昼食時にカラオケ会場を貸し切ってアルファを実施しています。これはとてもクリエイティブです。カラオケには食事、AV システム、テレビ、アルファのスマールグループディスカッションのための複数の部屋が備え付けられています。また、有名なスチームポートレストランチェーンである Hai Di Lao でもアルファが運営されていると聞いたことがあります。これはとてもクリエイティブで素晴らしいことです。しかし最後に、デジタル・スペースについても忘れてはなりません。インドネシアでは compassion と提携し、400 を超える compassion のスマールグループに対してアルファをオンラインで実施し、3,200 人以上の子どもたちやティーンエイジャーに届けました。中国では、ボランティアのグループが 24 時間 365 日オンラインでアルファを運営し、いつでもどこでもイエスを知ることができるようになりました。デジタル・スペースは、人々が物理的に教会に参加する前に教会を探索する安全な方法を提供し、他の方法では参加できないかもしれない人々に機会を与えています。そして、デジタル・スペースは、聖書が語っている、福音は水が海を覆うように地を覆う、ということを実感させてくれます。そして、これで終わりにしたいと思います。フリオ大主教は、未来に希望を与えるものは何かと尋ねました。そうですね、2024 年には 220 万人以上の人々がアルファを通して福音を聞きました。しかしアジアでは、150 万人に到達するのに約 10 年かかりました。しかし、2024 年だけで、50 万人以上に到達し、アジアでは、昨年末に最新のアルファ・ユース・シリーズを開始してからわずか 3 カ月で、103 万人以上の Z 世代とアルファ世代の若者に到達しました。英国では、Z 世代が主導する静かなリバイバルが起こっていて、教会への出席率は 4% から 16% に、若い男性の出席率は 4% から 21% に伸びています。驚くべきことです。そして、これは

私に多くの希望を与えてくれます。神は動いておられ、福音は加速しています。私はただ、私たち全員と一緒に来て、一緒に加速するよう招きたいのです。ありがとうございました。

フリオ大主教：神は動いておられ、福音は加速しています。お二人とも本当にありがとうございました。では、次のゲストを紹介するため、ジョー大主教にバトンタッチします。

ジョー大主教：ありがとうございます。これから東南アジアから南部アフリカに飛びます。ところで、このウェビナーにはフィリピン、トリニダード・トバゴ、ブラジル、フランス、ミャンマー、バルバドス、マレーシア、パプアニューギニア、ニュージーランド、ソロモン諸島、イギリス、ブルンディ、パキスタン、インド、バーレーン、ケニアからの参加者がいます。これらは私たちが名前を知っている人たちだけです。それでは、モザンビーク・アンゴラ聖公会ニアッサ教区のカテキスタ、フレイザー・ムズングさんをお迎えしましょう。会えてうれしいです、フレイザー。マラウイで、そして現在はモザンビークで、どのようにして伝道と教会の設立に携わるようになったのか教えてください。

フレイザー：ありがとうございます。私の名前はフレイザー・ムズングです。1993年4月2日、マラウイにある SCOM という超教派のキリスト教団体の集会で生まれ変わりました。その集会の後、私は自分の所属する聖公会の教会で、人々が主のもとに来ること、あるいはイエスを主であり救い主であると知ることが必要であることに気づきました。それ以来、私は自分の教会や他の教会に出かけて行って福音を宣べ伝える伝道活動を始めました。自分の教会だけでなく、あちこちに出かけて行って伝道者として伝道メッセージをすることができるようになりました。そうしているうちに、当時のユダ牧師がモザンビークのニアッサ教区のビンセント・ムソサ主教に私を推薦してくれました。「あなたはマラウイで多くのことを成し遂げたのだから、今度は自分の国であるモザンビークに来て、モザンビークの伝道を手伝ってほしい」と。それで私はモザンビークに行き、聖ステファノという教会の管理を任せられました。私が到着したとき、その教会には毎週日曜日に 50 人ほどが通っていました。しかし、4 年後に私が去ったときには、毎週日曜日に 400 人以上の人々がその教会に来ていました。私たちは、教区が一つの場所に集まって祈ることができるように、毎月教区のために祈りの夜を設けました。教区全体が祈りに包まれるようにするためです。また、教区内の伝道チームの結成にも影響を与え、私は教区内の伝道チームの幹事をしていました。そして現在、私はマラウイに戻っています。アッパーシャイア教区のマスク教会で、弟子訓練トレーナーをしています。

ジョー大主教：ありがとうございました。祈りが教区に伝染するというあなたのイメージが大好きです。では、教会の設立はどのようなプロセスで行われるのですか？

フレイザー：私たちはオープンエアーを行っています。聖公会がないところで、教会を開くためにオープンエアーを行います。そこで 3、4 日間説教をした後、教会を指導できる人物

を特定します。そして、教会になるために人々を組織します。そして、毎月、あるいは毎週、日曜日にそこに行って、組織を作り、祈りを行います。少なくとも 2~3 カ月は、その人たちが自分たちで祈る方法を知るようになるまで続けます。また、イエスが私たちのためにどのように苦しまれたか、その場面を見て励まされるように、イエスの映画も見せます。また、聖書の学びを奨励し、人々が聖書に根ざし、自分がなぜクリスチャンなのかを理解できるようにします。何よりも、私たちは会員に力を与えます。例えば、ここモザンビークでは、人々が別の場所に引っ越しても聖公会の教会がない場合、他の教会に入ります。そこで私たちは、あなたが現地に行ったら、あなたは大使であり、あなたの家族、あなたの妻、あなたの子供たちと一緒に教会を始めなさい、そうすれば他の人たちも加わって、それが小部屋となり、拠点となり、その過程でパリッシュとなるでしょう、と言いました。あなた自身から始めるのです。何よりも、私たちは信徒にキリストの生活を送るよう勧めます。そうすれば、人々は信徒を見たときに、この人たちはどのような生活をしているのだろうか？彼らはどこで祈っているのか？そして教会を呼び、聖公会が生まれるのです。ありがとうございました。

ジョー大主教：聖書の勉強についても話してくれましたね。これだけ多くのことが起こっている中で、神の民の信仰を深めるために、どのように弟子たちを育てているのでしょうか。どのように深めていくのでしょうか？

フレイザー：キリスト教では、信仰を深める方法として、祈り、聖書の学び、証し、交わりの 4 つの基本的な方法があることを理解しているからです。これらは、私たちが信徒に勧められていることです。祈りを深めること。聖書の学びを深めるべきです。証を深め、交わりを深めるべきです。教会に来れば来るほど、聖書について学ぶようになるからです。聖書には、神の子として集うことをやめてはなりません。ですから、私たちはそれを奨励しています。私たちはまた、説教の後のフォローアップも奨励しています。人々が主にあってどのように過ごしているかを確認するためにフォローアップを行い、それを通して彼らのクリスチャン生活を深めていくのです。

ジョー大主教：ありがとうございました。では、最後の質問です。世界の他の地域の教会は、どうすればあなたのようにこの活動を始めることができるでしょうか。どのようなアドバイスをしますか？

フレイザー：私のシンプルなアドバイスは、失われた人々に対する情熱を持った人々を見極めるべきだということです。世界は失われており、聖書はすべての人に悔い改めるよう呼びかけています。聖書には、神は世を愛し、その独り子をお与えになりました。ですから、情熱のある人たちを選び、装備を整え、訓練し、教会を開くために送り出すべきです。彼らにはそれができます。また、自分の家族や隣人に教会を始めるように勧めたり、イエスのこと

を伝えたりすることもできます。あなたは隣人にイエスのことを話し、その隣人がイエスのことを話します。ある晩、一緒に会って聖書について語り合い、それを通して教会が生まれるのです。主教と司祭は伝道の重要性を認識し、緊急性をもってこれに取り組むべきです。教区で福音主義が死滅しないようにすべきです。ありがとうございました。

ジョー大主教：ありがとう、フレイザー。そこには司祭や主教への挑戦があり、私たち全員へのインスピレーションがあります。それではフリオ大主教に話を戻します。

フリオ大主教：素晴らしい。ありがとうございます。ジョー、ありがとう。そしてフレイザーさん、ありがとうございました。続いて、Thy Kingdom Come（み国が来ますように）のケミ・バムグボーズさんと、ブラジル聖公会の南西教区のフランシスコ・ダ・シルバ主教をお迎えします。こんにちは。ケミ、Thy Kingdom Come について教えてください。また、あなたの役割は何ですか？

ケミ：ありがとうございます、大主教様。私の名前はケミ・バムグボーズで、ご存知の方も多いと思いますが、ボブ・キー司祭をはじめとする素晴らしい小さなチームとともに、「Thy Kingdom Come」プロジェクトのリーダーを務めています。簡単に言えば、Thy Kingdom Come は、クリスチャンが祈ることを奨励し、友人、家族、地域社会、そして国がイエス・キリストにおける神の救いの愛を知るようになることを願い、カンタベリー大主教の伝道と証しに関する顧問であったクリス・ラッセル司祭はいつもこう言っていました。だから私たちは祈りから始めます。このことを念頭に置いて、カンタベリー大主教とヨーク大主教は2016年にThy Kingdom Comeを立ち上げました。当初は英国聖公会の福音化のための祈りの呼びかけでしたが、この10年間でこの世界的なエキュメニカルな祈りの運動へと花開きました。昇天と聖霊降臨の間の貴重な数日間に、世界中の多くの国々におよぶ約85の異なる教派や伝統にまたがる何千万人もクリスチャンが祈りに加わりました。私たちは特に、「5人のために祈りなさい」というメッセージに焦点を当て、一般のクリスチャンに、彼らが知り愛している5人の人々がイエスを信じるようになるようにと祈るよう勧めています。そしてこのメッセージは、世界のさまざまな地域、さまざまな教派を超えて実に効果的です。多くの教会、家族、個人が、さまざまな方法で「み国が来ますように」に参加している。たとえば、ある教会では地域社会を歩き、地元の学校に立ち寄って若者のために祈ったり、病院で病人のために祈ったりしています。さまざまな場所を接点として、地域社会のために祈るのです。他の教会では、自分たちだけで祈ることもあれば、地域のさまざまな教派の教会と一緒に祈ることもあり、世界のさまざまな地域の教会と提携しながら祈り続けることもあります。他の教会では、祈りの場を組織し、教会の建物の中で祈ることもあれば、教会の敷地があれば外で祈ることもあります。そのような祈りの場では、人々がさまざまな祈りのスタイルで祈り、神と出会うことができます。私たちのウェブサイトには、そのためのさまざまなリソースがたくさんあります。私にとって大きなこと、本当の喜びであり特権であるの

は、この 10 年間に Thy kingdom come に寄せられた 1,000 件もの証しを読むことです。教会は、弟子訓練を深めています。クリスチャンたちは、日常の中で福音を伝える自信を深めています。教会が成長しています。以前は苦勞していた祈禱会を始める教会、Thy Kingdom come⁺からは、さまざまなストーリーが伝わってきます。そして、先ほど申し上げたように、私たちは 11 日間の間、教会や家族、個人が祈るためのリソースをたくさん作っています。リソースを使うこともできます。あるいは、リソースを使う必要はまったくありません。私たちは気にしません。あなたが祈り、人々が神の愛を知ることができるように祈るのであれば。ということで、今年はスティーブン・コットレル大主教が執筆されたノヴェナという印刷物の翻訳をさまざまな言語で用意しています。教会のための祈りのリソースもあり、祈りのステーションや祈りのウォーキングなど、さまざまなことをするのに役立ちます。そして、家族向け、子供向け、若者向けのリソースもあります。そして、「Thy Kingdom come (み国が来ますように)」の全コンテンツを収録したアプリを含む、たくさんのデジタルリソースがあります。

フリオ大主教：ありがとうございました。ケミ、あなたが言うように、私の心に残ったことのひとつは、5 人のために祈るということです。それが始まりです。さて、あなたはフランシスコ主教を招き、「み国が来ますように」の体験のいくつかを私たちと分かち合ってくださいました。それは伝道にどのような影響を与えましたか？あなたの教区での影響を示すエピソードを 1 つか 2 つ教えてください。また、フランシスコ主教の未来に希望を与えるものは何ですか？

フランシスコ大主教：フリオ大主教、ありがとうございます。今日、このウェビナーに参加されている世界各地の皆さん、こんにちは。「み国が来ますように」の体験は、個人としてだけでなく、集団としても、人々を動かし、祈りの波を起こす強い力を持っています。祈りはすべての出発点だからです。イエスがそのミニストリーにおいて多くの場面で、いつも祈ることから始められたことを思い出してください。弟子たちを選ぶ前の祈り、ミニストリーにおける重要な瞬間の前の祈り、私たちのために死ぬ前の祈りなど。だから祈りは不可欠です。祈りは、神の家族全体としての私たちの努力を強めるためにとても重要なのです。このように、私の経験では、私は 2015 年のキャンペーン当初からご一緒しています。私が行った仕事のひとつは、資料、特にノヴェナをポルトガル語に翻訳することです。そして、これはキャンペーンの豊かな点であり、本当に普遍的なものです。これがこのキャンペーンの力です。私たちは南半球の出身で、「み国が来ますように」キャンペーンはキリスト教一致のための祈りの週と重なっています。私たちは聖公会のみとして祈るのではなく、神の民として共に祈るからです。そしてこのキャンペーンは、一致のための祈りの週において、私たち全員にとって良い支えとなりました。もうひとつ皆さんにお伝えしなければならないのは、祈りとはただ祈るだけではないということです。これがこのキャンペーンの良い点です。そう

例えば、2022年のランベス会議の前にノヴェナを翻訳したとき、その年のジャスティン大主教が書いたものでした。そして、そのノヴェナの文章の中に、会議で学んだペテロの第一の手紙の一節があったのをはっきりと覚えています。大主教は、祈りは私たちの心を神に開き、神の民を見る目を高めてくれると言いました。つまり、祈りとは、ただ自分の部屋に行ってドアを閉めるということではなく、自分の人生や人々の人生に具体的な影響を与えるものなのです。だから素晴らしいのです。ありがとうございます。そして未来のために。おそらく5人のために祈るだけでなく、キャンペーンに具体的なステップやアクション、たとえば木を植えるとか、ホームレスに食べ物や水を与えとか、そういったことを加えていくことで、未来は完全なステップを踏んで存在していくのだと思います。このような機会を与えてくださったことに感謝し、今年のキャンペーンが良いものとなりますように。ありがとうございます。

フリオ大主教：お二人ともありがとうございます。ケミ、「み国が来ますように」にアクセスする方法とタイミングを教えてください。

ケミ：もちろん、Thy Kingdom Come は5月29日に始まり、6月8日に終わります。すべての資料は Thy Kingdom Come のウェブサイトで見ることができます。大主教、ありがとうございました。

フリオ大主教：今日はインタビューに答えてくださった方々、ありがとうございました。多くのことを考えさせられました。私たちは確かに、この呼びかけをより深く探求するよう私たちを励ますような話をたくさん聞きました。そのプロセスをサポートするために、私たちはいくつかの新しいリソースを紹介します。

ステファン：ありがとうございます、フリオ大主教、聖公会事務局のステファンです。聖書を学ぶための資料があります。ベツレヘムの幼子イエスのもとを賢者たちが訪れたのは、証のしるしでした。そしてもうひとつは、ルカによる福音書10章から、イエスがガリラヤ全土に70人の男女を呼び寄せて遣わした方法です。聖書の学びは、私たちに呼びかけを与え、それぞれの場所で実践的に応答するよう招いているのです。他のリソースへのリンクもお送りします。intentional disciple resource hub（意図的弟子養成リソースハブ）は、あなたのパリッシュで弟子訓練を奨励する方法について、5つの異なる言語で多くの助けを与えてくれます。すでにご覧いただいた alpha.org のウェブサイトや、教会の建設立に関する plant Anglican のウェブサイト、そして Thy kingdom come のウェブサイトもあります。このウェビナーの後にお送りするEメールで、これらすべてをお送りしますし、ウェブサイトにも掲載します。皆さんの声を聞き、これがどのように進んでいるのかを見るのは素晴らしいことです。ですから、これらのリソースを推薦します。ありがとうございました。

ジョー大主教：ありがとう、ステファン。続いて、寄せられた質問にお答えしましょう。ありがとうございます。アルファについていくつか質問がありましたので、メリッサに紹介します。メキシコから参加した人は、アルファについてもっと知りたいのですが、と言っています。また、ネパールから参加した人は、ネパールの聖公会青年ネットワークの青年会長で、私たちはここでアルファ・コースを紹介したいと思っています、と言っています。以前、マレーシアの神のしもべの一人がアルファ・コースを紹介したのですが、その時はそれを進めることができませんでした。アルファをどのように立ち上げ、どこで見つけることができるか、ご指導いただけないでしょうか？

メリッサ：ありがとう、興味を持ってくれてありがとう。私たちは世界中の約 160 カ国にアルファのローカルチームを持っています。私の E メールをチャットルームに送ります。melissa.theng@alpha.org、あなたを助けてくれる適切な現地スタッフにおつなぎします。そうでなければ、インターネットで alpha.org を検索してみてください。お役に立てれば幸いです。

ジョー大主教：ありがとう、メリッサ。伝道と教会の設立、そして両者の位置づけについてムーン大主教に質問です。これは米国からの質問です。私たちの伝道活動は教会の設立を期待すべきなのでしょうか、それとも、教会が減少している私たちの状況では、すでに存在している信徒を活性化させる方がよいのでしょうか？パリッシュは十分にありますが、私たちに必要なのは、すでにあるパリッシュが復活したキリストをより完全に信じることができるように、み言葉を広めることです。あなたはどのように思いますか？

ムーン大主教：3 つ言わせてください。第一に、私たちの教会がなぜ減少しているのかを明らかにしなければなりません。そしてその 2、私たちはそれを食い止める必要があります。そして 3 つ目は、教会を活性化させることです。つまり、伝道と教会の設立とは、新しい教会を建設することではありません。既存の教会を据えればよく、既存の教会を再生させるのです。つまり、若者のいない教会に若者を据えるのです。だから、あまり詳しくは言えませんが、大きな理由のひとつは、彼らのニーズを満たせるかどうかを見極めなければならないことがあるということです。そしてたいていの場合、私は教会を去った若者を連れ戻そうとしたとき、そして彼らを励ますために小グループやハウス・フェロウシップを行ったときに、彼らに聞いて回ったことがあります。そして、彼らのほとんどがこう言うのです。「教会には友達がいなくて、教会はなぜか私の頭上で話している。教会は私のニーズを満たしてくれない」。だから、私たちは全体を解釈し直し、再調整しなければならないのです。もうひとつは、若者の多くが「関連性がわからない」と言うことです。フレイザーが言うように、私たちの人生はキリストのようであればなりません。そうでなければ、私たちは一つのことを言っているのであって、それが私たちの生活に表れていないのです。というわけで、この 2 つのことをまとめてみました。

ジョー大主教：ありがとうございます。ビセンティア大主教、米国からの質問です。宣教活動と植民地主義の間には多くの類似点があります。宣教活動に携わるとき、聖公会の植民地支配の過去とどのように折り合いをつけるのでしょうか？

ビセンティア大主教：私たちは自分たちが何をしているのか、注意深く自覚する必要があると思います。私たちは誰かに商品を買っているわけでもなく、誰かを私たちの側に引き込もうとしているわけでもなく、キリストがどのようなお方であることを紹介しているのです。そして、私がここで聞いた控えめな言葉は、私たちがそれをどのようにモデル化するかということだと思います。私たち自身ができないことを人に指示することはできないし、私たちが何者で、どこから来たのかという過去を認める必要があります。それを通して、宣教師がしたことと、私たちが今日、教会で伝道していることを区別することができると思います。

ジョー大主教：ありがとうございます。この話題に飛びつきたい人はいますか？大きな話題です。いつもそこにありますよね。パウロ大主教 この質問はブラジルからですが、いわばインドに送ろうと思います。新しく据えられた聖公会の助けとなるような主な資料はどこにあるのでしょうか？弟子訓練についての質問だと思いますが。

パウロ大主教：リソースはすでにネット上にあると思います。聖公会のウェブサイトには、かなりの数のリソースがあります。私たち自身の状況としては、自分たちで資料を用意するようにしています。自分たちの教会のために、自分たちで資料を書いています。

ジョー大主教：ありがとうございます。パウロ大主教。

ムーン大主教：飛び入りで参加してもいいですか？アングリカン・コミュニオンのウェブサイト、福音宣教・弟子訓練委員会（Commission on Evangelism and Discipleship）には、たくさんリソースが掲載されています。ありがとう。

ステファン："Jesus shaped life"で検索すると、そのようなリソース、"Jesus shaped life"にたどり着くことができます。

ジョー大主教：ありがとうございます。ステファン、英語だけでなくポルトガル語でも書かれていますか？

ステファン：いろんな言語があります。そう、途方もなく。

パウロ大主教：ヒンディー語にも翻訳してもらいました。ですから、ヒンディー語でも読むことができます。ハレルヤ。

ジョー大主教：フランシスコ大主教、ブラジルの状況について、リソースの面で何か付け加えたいことはありますか？

フランシスコ主教：ジョー大主教、ありがとうございます。ポルトガル語に翻訳されたノヴェナは、私の教区の教会で共有されています。例えば、キャンペーン期間中は毎朝、ミーティングによる短い黙想を私の教区の聖職者や共同体と共有する習慣があります。しかし、私たちは常に他のリソースの翻訳を拡大することができます。聖公会のポルトガル語、つまりルソフォンのコミュニティは大きく成長しており、私たちはポルトガル語の資料を増やす努力をしなければなりません。

ジョー大主教：ありがとうございます。

フランシスコ大主教：もうひとつ、「み国が来ますように」は、キャンペーンと連動した実践的な行動を生み出すこともできると思います。祈ることは素晴らしいことですが、例えば、私の住んでいる街にはホームレスの人々がたくさんいるので、祈りを具体的な行動に結びつけることができます。これは「み国が来ますように」キャンペーンの実践的なアウトワークです。Thy Kingdom Come は、人々が祈りとリンクした具体的なことを実践する機会を提供することができます。

ジョー大主教：ありがとうございます、主教。ケミ、「み国が来ますように」についてさらに質問があります。次に、祈りの場についてもう少し知りたいのですが、祈りの場とはどのようなもので、どこにあるのでしょうか？

ケミ：はい、スペイン語で「み国が来ますように」のノヴェナがあります。私たちのウェブサイトにもありますし、祈りの場所についての情報もあります。

ジョー大主教：ありがとうございます、ケミ。

ジョー大主教：ビセンティア主教、ACSA（南部アフリカ聖公会）のグラハムズタウン教区からの質問です。ACSA の伝道と教会の設立をどのように復活させることができるか、アドバイスをいただけないでしょうか。

ビセンティア大主教：グラハムズタウンのメンテナンスモードであって、ACSA のメンテナンスモードではないと思います。ひとつ言えることは、私たちが伝道と教会の設立について話しているこの働きは、日曜日の働きだけではないということです。私たちは、日曜日を待って何かをするのではなく、ホームセルや組織の小グループの伝統に立ち返る必要があると思います。どうすれば伝道し、自らの精神を新たに作る人間になれるのか、つまり、私たちが教会としてなすべきことは、日曜日だけでは十分ではないということです。私たちにはこの仕事をするための他の 6 日間があるのです。

ジョー大主教：グラハムズタウンに課題を投げ返すとは、見事なやり方だです。素晴らしい。パウロ主教、これはあなたにです。現在の政治状況を踏まえ、デリー地方での伝道はどのように行われていますか？

パウロ大主教：28州のうち12州で改宗禁止法が制定されており、ある州では自宅で祈祷会を行っていても投獄される可能性があります。これが現状です。そこで私たちが試みたことのひとつが、宣教の5指標に関する最初のワークショップで、どのように福音を伝えるか、というものでした。そして、私たちは人々に、自分の個人的な証しを互いに分かち合う練習をさせました。ワークショップでは、個人的な証を互いに分かち合うことが重要で、そうすれば職場で証を分かち合うことができます。それが、どこにいても伝道できる重要な方法のひとつです。教会の敷地内では、これまで、少なくとも都市部では、それほど大きな反対には遭っていません。ですから、私たちは3日間の大会を開き、他の宗教の友人を招待するという伝統的な方法を続けています。そして伝道的であります。大会の最後には必ず祭壇への呼びかけがあり、人々に献身を呼びかけます。これが、私たちが現在の問題に取り組んできた2つの基本的な方法です。

ジョー大主教：ありがとうございます、パウロ。フレイザー、これはあなたにです。信徒はどうすれば聖職者に、弟子を作ることが教会の最優先事項であると信じさせることができるでしょうか。

フレイザー：信徒は教会で活動する必要があります。司祭たちが彼らを賞賛するような活躍をしなければならなりません。説教が足りない、伝道が足りない、あなたは月に一度しか教会に来ない人です。毎週日曜日に教会に来て、教会のあらゆる活動に参加する必要があります。そして牧師は、この人なしではやっていけないと言うに至ります。そして、あなたが外に出て説教をしようと言ったとき、司祭は断ることができなくなります。なぜなら、あなたはすでに信頼でき、教会で役に立つことを示したからです。だから信徒は、聖公会の模範となるような生き方をすべきなのです。イエス・キリストの生き方をし、教会の誰もが賞賛するような生き方をすべきなのです。そして、彼らが説教に出かけると言ったら、誰もが、そうだ、この人が生きているような人生を生きてみよう、と言うべきなのです。ありがとう。

ジョー大主教：ありがとうございます。フレイザー、素晴らしい。メリッサも微笑んでいるのが見えました。でもメリッサ、もうひとつ質問があります。デジタル伝道について詳しく教えてください。伝道の訓練を必要とする人のフォローアップも含めて教えてください。

メリッサ：アルファは伝道と弟子育成を目的としているのですが、アルファをオンラインで行う場合、週に一度ゲストをオンラインに招待し、彼らと一緒にアルファ・コースを行います。アルファ・コースの期間中、約11週間、毎週ミーティングを行います。現在、私たちはCOVIDを経験して以来、オンラインでは世界中のあらゆる場所にいる人々に連絡を取る

ことができ、交通渋滞を避けることができるという利便性があります。しかし、私たちが常に行っているのは、3週目以降になると、ゲストと物理的にも関わりを持ちたいということです。食事に誘ったり、ボーリングに誘ったり、そして、毎週オンラインで会うことで、人間関係が急速に深まることに気づくでしょう。そのため、最終的に実際に会うと、まるで昔から知っていたかのように、人間関係が加速するのです。人間関係が加速する、そこから、私たちはただコミュニティを築き、彼らがすでにクリスチャンであれば教会に行くように勧めるなどしていきたいのです。しかし、オンラインの利便性と同時に、物理的な集まりの必要性という要素も必要だと思うのです。なぜなら、直接会って、兄弟姉妹の肩に手を置いたり、彼らのために祈ったりできることに勝るものはないからです。しかし、デジタル伝道やデジタル教会には多くの側面があります。多くの議論が必要だと思います。確かヒルソングだったと思いますが、統計によると、人々はオンライン・チャーチにアクセスして、どんな教会なのか、どんな教会なのか、自分はこの教会に共鳴できるのか、といったことを調べるのだそうです。そして、自分が教会に共鳴しているのか？ ですから、もしあなたの教会がそのような人たちに道を提供するのであれば、それは人々が教会に入ってくるためのもう一つの扉を提供することになるのです。また、オンライン・チャーチの運営方法は、単にストリーミングのようなものではだめです。私たちがやっていることの延長線上にオンライン・チャーチがある、と言うのではなく、どのように積極的に彼らを牧会し、弟子にしていくのか、ですから、この問題には多くの考え方があり、誰も完全な答えを持っていません。人々が安全で、イエス・キリストとの関係を築くことができ、互いに支え合うコミュニティを築くことができる限りにおいてです。すべては神に感謝です。

ジョー大主教：ありがとうございました。メリッサ、そろそろ終わりにしようと思いますが、ここでちょっと質問があります。ケミも欲しいかもしれませんが、私はステファンを指さします。Thy Kingdom Come とアルファについて、いろいろとありがとうございました。教会の刷新の基盤となる祈りのミニストリーの必要性を強く感じています。弟子訓練と伝道に対する観想的なアプローチ、あるいは典礼的な、パリッシュ的なアプローチについて、何か行われたことはありますか？ステファン。

ステファン：もちろん、祈りはすべての基礎であり、成長する教会は祈る教会であり、祈る教会は成長する教会です。世界キリスト教黙想共同体というものがあります。インターネットで調べると、世界的なものであることがわかります。それは、特に観想的な祈り、神の臨在の中において、神に耳を傾け、神の恩寵と聖霊を受ける黙想を支援するためにあります。これが基礎となります。だから、そこから始めて、それを調べて、それから、祈るのです。ある意味ではとてもシンプルなことなのです。ありがとう。

ジョー大主教：ありがとうございます。ステファン、ムーン大主教、この質問は我慢できないのですが、本当に早くお願いします。小さすぎて別の教会を建てられないということはありますか？

ムーン大主教：これだけは言わせてください。私たちは教会に、あなたが10人か20人の会衆である限り、あなたが始めたら、あなたはとても驚くでしょう。なぜなら、あなたが新しい教会、新しい会衆を据え始めたら、神は母教会やプランター教会を忘れることなく、祝福してくださるからです。だから私は、個人でもできることだから、いつでも制限はないと言いたいです。そして、私たちはまず自分たちの国民を伝道する必要があります。彼らが成長する必要があるという概念を持つまでです。聖公会は伝統的な教会であり、私たちは長い間ここにいます。私がこの教会に来たときは、古い教会でした。新しい教会ではありません。だから、私たちは人々に伝道し、示し、導き、伝え、納得させなければならなかったのです。彼らの考え方を変えるには、1年や2年かかることもあります。でも気にしないで、彼らは必ず来ます。

ジョー大主教：ありがとうございました。

ステファン：早速ですが、2つの質問にお答えします。質問の中に、教会は木のようなものだというのがありました。フランシスコ主教がおっしゃったことはとても重要で、私たちが祈るなら、教会が祈るなら、それは木が地面に深く根を下ろすことであり、根が深く張れば、木は外に向かって成長し、多くの鳥、多くの人々、多くの共同体の隠れ家となることができるのです。だから祈り、成長する教会は祈る教会なのです。祈る教会は成長する教会なのです。皆さん、本当にありがとうございました。

ジョー大主教：フリオ大主教をお願いします。パネルの皆さん、本当にありがとうございました。

フリオ大主教：友人の皆さん、今回のウェビナーでは、多くのことを学びました。聖書の学習資料を使って、召命についてさらに探究してください。また、昇天祭から聖霊降臨祭までの間、「み国が来ますように」イニシアティブに参加されることをお勧めします。そして、あなた自身の体験談をぜひお聞かせください。shareyourstory@lambethconference.org 最後に、皆様のご参加に心から感謝いたします。次回のウェビナー（9月17日、18日）で再びお会いできることを楽しみにしています。次回のウェビナーは9月17日（土）、18日（日）です。詳細は追ってメールにてお知らせいたします。ご参加ありがとうございました。最後に祈りをささげましょう。

神よ、ランベス・コールに続く宣教と伝道に関するこのウェビナーの参加者と発表者に感謝します。あなたの民が福音の福音を宣べ伝えることができるように、特にその言葉がまだ聞

かかれていない人々や場所に福音を宣べ伝えることができるように、あなたの民を引き続き整え、可能にし、奮い立たせてください。神が私たち皆のために持つておられる世界的な宣教に参加するために、支持者を訓練し、宣教師を派遣するための資源を提供することができるようにしてください。私たちの救い主である復活の方、イエス・キリストのみ名によって祈ります。アーメン。